

コロナ禍だからこそその自治会活動

～コロナ禍の活動、みなさんどうしていますか？～

保存版

自治会・町内会で
保存してお使いください

暮らしよい静岡を支える人を知る好事例集

会議対策の好事例

基本に忠実！「会議の感染対策」

- ・月1回の公園清掃のときに会議も済ませるようにした。
- ・会議は10分の短時間で実施し、窓を開け、風通しをよくしている。
- ・検討が必要なことは役員に文書で回答を求め、一定の期間をおいて回収。
文書のやりとりも役員宅のポストへ投函し、回収も会館等のポストを活用。
極力、顔を合わせなくてもすむように配慮している。
- ・会議を2部制にして人を減らしたり、会議時間の短縮を図っている。
- ・極力短時間にするために、前準備に時間をかけている。
- ・月例会は開催しておらず必要に応じて開催している。



手段そのものを検討！

- ・書類決裁を多くする。 ・TELでの連絡が多くなった。
- ・役員の人たちにはラインで連絡をしている。
- ・感染防止を目的に回覧板を全戸配布に切り替えた。
- ・オンライン会議や短時間開催にすることで、密度の濃い内容に変化している。
- ・イベント、会合の減少により、活動に消極的にならないよう、声掛けをしている。
- ・R3年度は行事ができなかったため、祭りと防災のお金の徴収をやめて、連自治会費も減額した。

しずおか 自治会マガジン

この冊子では、「全自治会・町内会アンケート結果報告」で伝えきれなかった好事例を、より具体的にお伝えします。

活動見直しの好事例

コロナ禍だからこそできる見直し！

- ・メールでの交流が増えた。
- ・役員の人たちにはラインで連絡をしている。
- ・会議をしなくとも運営はできると再確認した。
- ・コロナに限らず配布資料に必要な事項を記載し書面だけでもわかるようにしている。
- ・高齢化のため、運動会の開催を半日にしたり、競技内容を見直したりしている。



見直しを検討中！

- ・自治会活動の簡素化をアンケートを取り考えている。
- ・今までの会議開催は無駄が多かった可能性あり。再考中。
- ・側溝清掃を2年に1回にするか検討中。
- ・会費や募金の集金を都度でなく一括で集めようと準備中。
- ・各種イベントの見直しの機会だと考えている。

～目次～

表紙	06	05	03	02	01	表紙
地域デザインカレッジ2021	負担を減らしてみませんか	気になるあの自治会を訪ねてみました	住民参加の工夫	全自治会・町内会アンケート結果から	コロナ禍の地域防災2021	コロナ禍だからこそその自治会活動

これからの地域活動

令和3年度 静岡市自治会連合会
会長 瀧義弘

新型コロナウイルスによって社会は様々な変化を求められています。このことは自治会・町内会も同様です。自治会・町内会の活動も制約を受けている活動がたくさんありますが、コロナ禍を受けて、やはりやらなくてもよいという活動や簡素化できる活動があれば、それはしっかりと見直しをすべきだと思います。しかし一方で、やはり必要だと改めて認識したような活動もあると思います。

私はコロナ禍で、これまで以上に自治会・町内会の必要性を感じています。行政による公助や自分自身の自助に限界があることを、このコロナ禍でも改めて感じました。例えばワクチン予約はインターネットですべてできると言われても、それを自分でできる人ばかりではない。そんなとき、いろいろな地域で予約を支援するような活動が見られました。

自治会・町内会の基本は、向こう三軒両隣の助け合い、「共助」です。困ったときに地域で助けを合おう、また、助け合うための絆を普段から築いていく、自治会・町内会がその地域の要です。で、これまでに以上自治会・町内会の活動は重要になってくるとおもいます。





高部地区連合自治会ほか

給水手順を確認！

災害に備え自ら水を備蓄することは大切です。断水時には、給水車を思い浮かべる方も多いと思いますが、静岡市には給水車が10台しかなく、大規模災害時には救護病院などへの給水活動が優先されます。一方、市内には、飲料水にも使える共助のための耐震性貯水槽が42か所に整備されていて、停電時にも手動ポンプで水を汲み上げることができます。

高部地区連合自治会は、上下水道局の協力を得て、高部小学校にある耐震性貯水槽からの給水手順の確認を行いました。コロナ禍で、大人数の訓練は難しくとも、こういった手順の確認をすることで有事に備えることも重要です。

コロナ禍の防災活動。
なかなか一歩が踏み
出せない…。

コロナ禍の
防災活動がどうも
しっくりこない…。

コロナ禍の 地域防災2021

～コロナ禍の防災対策好事例～



長田西自主防災会

リサイクルふすまで避難所の感染対策訓練！



コロナ禍であっても、大規模災害時には被害状況により、避難所を開設することになります。長田西自主防災会では、使わなくなった、ふすまや障子を集め、コロナ禍の避難所の感染対策の仕切りとして活用する訓練を行いました。地元企業の協力もあり集まった仕切りは50枚以上。各仕切りには事前に役員が金具を設置し、誰でもはめ込めば固定ができるようにしておきました。居住スペースはふすまを横に、トイレは縦にして使うことで、用途に応じた空間を確保できるようにも工夫をしました。常時からの発想の柔軟性が有事の際にも大きく役立ちそうです。

丸子新田自主防災会ほか

防災スタンプラリーで密回避！

丸子新田自主防災会は、コロナ禍であっても訓練ができないかと、役員でアイデアを出し合い、地区内の防災ポイントを歩いてまわる防災スタンプラリーを実施しました。住民は開催中、好きな時間に参加できるので、密を回避しつつ、公民館・神社・公園など、地域防災の要所を知ることが出来ました。各ポイントでは、防災役員が、災害時のトイレや、消火器の使い方などを説明・展示。防災について学ぶこともできました。さらに、各ポイントのスタンプを集めると、防災食や景品がもらえるお楽しみもあり、コロナ禍においても、楽しみながら有事に備える素晴らしき取り組みになりました。



これからの時代の防災

令和3年度 静岡市自治会連合会
副会長 山本雅司

住民が自治会・町内会に加入し、地域活動に参加してもらうためには、自治会・町内会は、地域にとって必要な活動をしていることが、住民に見えるということが大切です。

必要な活動は地域によって様々ですが、どの地域でも取り組まなければならなく、住民からも必要だと考えられているのが地域防災です。だから、どこの地域も一生涯懸命、防災訓練に取り組んでいます。

そして、その防災訓練に子どもや普段は地域活動に参加しない人にもしっかりと参加してもらうようにする工夫が大事だと思います。

私の地域の防災訓練では中学生にただ参加してもらおうのではなく、役割を持ってもらっています。だから、たくさんの中学生在が参加し、本当に頑張ってくれています。

このようなことは、防災訓練だけにとどまらず、ほかの活動にも参加してみようとか、地域への愛着が大きくなるか、そういうことにもききつつながっていくと期待しています。

当然、防災訓練は、災害への備えとしてはありますが、

他の活動への
住民参加

にもつながる大切な活動だと思えます。



令和2年度 静岡市全自治会・町内会アンケート結果から

【単位自治会の規模による傾向】

規模	大きい	小さい
活動頻度	高い	低い
自治会費	安い	高い
会長の従事日数	多い	少ない
会長の任期	長い	短い
会長の選出	互選推薦が多い	輪番が多い

今回のアンケートでは、以前から感じていた規模の違いが活動に影響することが、明らかになりました。

市内に78ある連合自治会には最大で70倍、955ある単位自治会においては最大で900倍もの規模の開きがあります。そして、世帯数が多い自治会は、活動頻度が高く、会費は安いのですが、会長の従事日数が増えます。逆に、世帯数の少ない自治会ほど、自治会費は高くなり、役員の出発方法に輪番が増え、会長の交代も早く、活動数が減っていく、そのような傾向もわかりました。

規模と活動

令和2年全自治会・町内会アンケート結果から、特筆すべき結果を、さらに深く解説します。

組織の種類と規模

さらに調べると、単位自治会のなかには、組数が195もある自治会があることがわかりました。そして、規模が大きな組は137世帯がひとつの組になっているような、単位自治会よりも大きい組があることもわかりました。

【市内の組と世帯数】

市内の総組数:18,326組
 1自治会の組数:最大195組
 1自治会の組数:最小1組
 1組の世帯数最大:137世帯
 1組の世帯数最小:1世帯

つまり、活動には適正規模があるのですが、規模だけを考えて、連合自治会、単位自治会、組や班といった区分けが、合致しているとは言えない部分も多そうです。

しかし、だからといって適正規模に基づいて、組や単位自治会を再編することは、その土地の歴史や人間関係によって成り立っている地域活動において、非常に難易度が高く、容易にできることではありません。ましてや人手不足や多くの課題が明らかになりつつある地域活動において貴重な労力を再編に注ぐことは、もったいないのかもしれない。

よりしなやかな活動へ

では一体どうしたらいいのか？市内では先んじて様々な取組が行われています。例えば、一つの活動において、必ずしも1組織1名を出すのではなく、活動内容によっては、組織を横断的にとらえ、複数の組織から1名を出すことも可能としています。さらに決定方法も、上が決めてしまうトップダウンではなく、小規模な複数の組織の話し合いによって決めさせる選択の余地も残り、柔軟に、各組織を尊重した対応をしている事例もあります。相手の規模や状況を加味しない「一律」を今一度見直し、相手に応じて柔軟な対応をすることが、地域活動の物質的、精神的負担の軽減にもつながっていきます。

令和2年全自治会・町内会

アンケートを受けて

令和3年度 静岡市自治会連合会 副会長 高山茂宏

自治会活動の課題は、「担い手の不足」、「活動の負担」、「住民の参加」というものが大きいことが分かりました。これらの課題は関連して、活動の負担が大きければその活動に参加する人が減ってしまい、一人一人の負担や役員の負担も大きくなり、負担が大きければ役員の担い手も不足してしまうと思いますので、「活動の負担」というところを見直すことが重要だと考えています。自治会は市からの依頼事務も多く引き受けているため、

地域活動と目的

とは言っても柔軟な活動が必ずしも理解されるとは限りませんが、地域活動でもありません。ひとりでも多くの住民に理解され、よりスムーズに活動を進めるには、住民が納得することが必要です。活動の目的が何なのか、なぜ変わる必要があるのかを、事実に基づいて、客観的に、必要であれば数字を用いて示すことが、より高い理解には必要になります。

今回のアンケートでは、防災や福祉といった「安心・安全なまちづくり」の必要性も明らかになりました。命を守る防災活動が住民に反対されることがないことも、その理由です。必要なことに柔軟に取り組める地域づくりが必要とされています。

市も依頼事務の負担軽減にしっかりと取り組んでもらいたいし、自治会も自らの活動を見直す必要があります。やめることができるものばかりではないと思いますが、少しのことでも簡素化できるところがあれば見直してほしい。自治会は地域における人と人とのつながりです。そのつながりのための活動を将来にわたっても継続していくために、自治会同士もつながり、協力しながら、今できる見直しに取り組んでいきましょう。



る可能性の高い高齢者も、自治会名簿に名前を残すことになり、防災対策へとつながっています。

年配と若い世代を分けて考える

奥山会長は、今の時代は一辺倒にしないことが大事だと言います。年配の世代にとっては当たり前でも、夫婦で土日関係なく働く若い世代にとっては、そうではない。だからこそ、年配と若い世代は分けて考える必要があるのだそう。今の若い世代は真面目なので、理解すればちゃんとやる。だから、正しいことを伝え、やって見せる必要があるとのことでした。例えば、防災訓練の安否確認の報告は、一つに限らず、ショートメールや電話、ファックス、対面まで選べるように対応すること、広い世代をカバーできるようにしています。

自治会のメリット デメリットを伝える

さらに、自治会に加入するメリットとデメリットを、包み隠さず伝え、加入への漠然とした不安を解消することにも吉川自治会では努めています。どのような団体が何の目的で行事や活動をしているのか、ごみ出しの詳細、そして自治会費はいくらで、集金方法は組で異なるなど。その一方で、加入すると組長を担う必要があることや、資源ごみの分別のお手伝いが必要なこと、毎月21日に会議が開かれるが15分で終わることや、負担を最小限にするために集金や配布物はまとめ

ていることまで、自治会に入会することと何が起るのかをていねいに伝えていきます。

次の世代のための自治会へ

奥山会長は、今のままで若い世代は自治会活動をやらせないし、このままでは負担が大きすぎて、仕事と両立をする若い世代にはできないと言います。そこで、いかに若い世代がついてくるようにするのかを考え、次の世代を意識した自治会活動への移行を少しずつ進めています。自治会費の見直しや自治会館の建て替え、令和3年には自治会活動と神社の祭事の切り離しにも取り組みました。

自治会館にひかり回線を引き、デジタル通信環境を整えたのは5年前のこと。ホームページを整備したり、令和3年には、会長専用のスマホを契約し、新しい自治会館には防犯カメラを設置し、クラウドを活用予定。現在は、自治会でライン公式を使った連絡方法を準備中など、デジタル化も欠かせません。その一方で、近隣住民から長年相談されていた空き家を、世代が交代するタイミングで新しい所有者と交渉し、許可を得て、ボランティアの役員や、周辺住民とともに樹木の伐採や必要最低限の清掃を行い自治会活動の理解につながるような活動もしています。

貴重な交流機会は最大限活用する

人のつながりを作るために欠かせないお祭りや行事は、工夫をすることで最大限活用しています。運動会のグル



県下一斉防災訓練の昼食を炊き出しで準備する中学生のようす。(コロナ禍により現在は休止中)

ープは地域で分けると、毎年同じ人たちとしか知り合えません。そこで、毎年すべての組をシャッフルし、違う組の知らない人も知り合える機会とし、有事の際に助け合える環境づくりを進めています。さらに、毎年12月の地域防災の日には、中学生に炊き出しを担当してもらい、若い世代と地域とのつながりを作りつつ、有事の際に中学生が動ける訓練もしています。(現在コロナ禍により休止中)

奥山会長の取組からは、地域が必要とする核となる部分を正確にとらえ、未来をみてしなやかに対応する様子を知ることが出来ました。今後の吉川のさらなる変化が楽しみです。

全自治会・町内会アンケートより

その市内の「住民参加の好事例」

- ・子ども会の役員と定期的話し合い、一緒に活動できる機会を探しています。
- ・夏祭りや運動会で新規防災部員を勧誘し、組織的な活動参加を促しています。
- ・夏のラジオ体操は高齢者にも参加を呼び掛けています。
- ・住民の趣味や子どもたちの作品を展示する趣味展を開催し、憩いの場を設置して、交流の場になっています。
- ・夏祭りは安価で飲食ができるようにし、子どもに無料でチューブ型アイスを配布。だれもが楽しめる場になっています。
- ・子ども会活動を自治会でも積極的に紹介しています。
- ・夏祭りやもちつき大会は、子ども会や老人会からも企画を募集して、みんなで作り楽しめるようにしています。
- ・地域の小学生の素晴らしい活動を自治会広報で紹介し、自治会から感謝状を渡しています。
- ・12月の地域防災の日には、毎年、中学生に防災の講師になってもらい、住民に指導してもらおうようにしています。
- ・秋に自主防災訓練と懇親会を一日で行うことで交流を図っています。

(コロナ禍で休止中の活動もあります)

気になるあの自治会を訪ねてみました！

静岡市役所の新人職員が、地域の課題について先進的な取組をされている自治会長を訪ね、活動のコツを教えてくださいました。

渋川北自治会

世帯数：約500世帯
人口：約1,400人
高齢化率：26.5%

(令和4年3月時点 自治会調べ)



訪問した人
葵福祉事務所生活支援課
村田真佑子

渋川北自治会
加藤勉会長

訪問した人
葵福祉事務所生活支援課
村田真佑子

静岡市が令和2年度に実施した「全自治会・町内会アンケート」の結果から、自治会活動の課題として「役員のみならず女性の手不足」「女性の参画不足」をあげた自治会が多くありました。自治会の担い手は不足しているのに女性の参画も進まないという自治会が多いなか、自治会活動に女性がよく参画しているという清水区の渋川北自治会の加藤勉会長にお話をうかがいました。

女性活躍の秘訣は「家庭第一、仕事第一」

Q 渋川北自治会では女性の自治会参画が多いとかがありましたか、どのように参画されていますか？

自治会役員の役職は会長、副会長、会計、常任委員、評議員で計12名です。そのうち4名が女性の役員です。

Q 女性の自治会への参画を促進されるようになった経緯を、教えてください。

「健康長寿のまち」、「安心・安全のまち」にしたいと考えています。子育てや介護など自身の経験を生かし、子育て世帯や高齢者など地域で困っている人に寄り添える地域にするには女性の視点が必要だと考えました。

Q 女性の自治会参画によってどのような効果がありますか？

評議員が3名いますが、全員女性にお願いしています。みなさん最初は評議員なんてできないと言いますが実は女性の方が向いていると思っています。評議員は、地域で生活している気づいたことや感じたことを自治会に報告・提案してもらうことが

大事だと考えているからです。例えば「あそこ道路が危ない」とか、「防犯灯が切れている」とか、「隣のおじいちゃんがかんなくて困っている」といったことです。日中地域にいること、多い女性にこそ、お願いできる仕事だと思っています。

Q 女性をはじめ、地域の方に役員をお願いする際のコツはありますか？

まず、その方の経験を生かせるような役割をお願いするようにしています。次に、役員が提案してくれたことをどんどん挑戦してもらっています。自治会の活動は何が正解かなんて誰も知りません。とにかくやってみることで。そして、「家庭第一、仕事第一」をモットーに、「楽しくやること」を大事にしています。自治会活動は基本がボランティアですからそのためにも、できることをできる範囲でやってもらえるようにしています。例えば誰かが都合が悪くても大丈夫のように、役員だけでも12名という体制を整えています。

地域活動は団体戦！

Q その他に渋川北自治会の特徴はありますか？

地域のために頑張ってくれている人は自治会以外にも、自主防災会や子ども会、老人会などの団体、そして民生委員や保健委員、交通安全委員といった個人など、たくさんの方々がいます。以前はお互いの名前や顔を知らないままに、それぞれが孤立して活動をしていました。そこで、お互いを知るために、各委員が一同に会する合同会議を、年に3回実施することにしました。会議ではお互いの活動報告

をしたうえで、各々の助けて欲しいことや気が付いたことなど、さまざまな情報を交換しています。顔の見える付き合いをすることで、信頼関係や絆が生まれ、お互いに協力しやすくなったと感じています。会議では自分達の活動の検証もします。団体や個人の役割が認知され、責任感ややりがいにつながります。各自が自分のすべきことを見つけ、「みんなが地域をつくる」という仲間意識になっているように思います。結果、たくさん住民を巻き込んだ活動につながり、多くの人が役員を辞めることなく継続してくれるようにもなりました。地域の一大イベントでもある夏まつりには、100人以上のスタッフが参加をしてくれています。

インタビューを終えて…

今回、加藤会長のお話をうかがって「家庭第一、仕事第一」をモットーにされているところが、渋川北自治会で女性が役員として活躍できるポイントだと感じました。「自治会活動」というと、どこか煩わしさを感じる方が少なくないと思います。それは自治会活動によって、家庭生活や仕事に負担が生じてしまうからではないでしょうか。渋川北自治会では、ご家族の介護をされている方、昼間は仕事に行かれていてもその方のできる範囲で、得意なことに取り組み、挑戦したいことは自治会全体で支え取り組んでいます。それぞれの生活を大切にしつつ、やりがいをもって活動ができるからこそ、女性の役員を含め、役員の皆さんが自治会参画を続けられるのだと思います。

簡単な作業を住民に委託

負担だった広報誌等の配布準備作業を、住民にお願いしています。

負担を減らしてみませんか

住民に業務委託

Q. なぜ委託をしたのですか

安東三丁目自治会は、約820世帯の、単位自治会としては比較的大きな自治会です。毎回、回覧文書や広報誌を72の組別に分ける作業だけでかなりの時間をとられてしまい、本来やるべき役員の仕事や、取り組みたいことに専念できなかったため、単純作業を誰かにお願いできないかと思ったのがきっかけです。

Q. 何をどのように委託していますか

市の広報誌「静岡気分」や各種お知らせを、各組の戸数にわけ、配布準備をする作業を、委託しています。各組の戸数に配布物をわけて、袋に入れ、組名をわかるようにし、7つの班にわけておく作業です。契約期間は2年とし、2年が経過したら、申し出がない限り自動更改としています。更改できない場合は、再度全戸に募集をする予定です。

ひとりの方に委託しており、作業は有償でひと月2回お願いしています。1回の作業時間は分量によりますが120分ほどです。大量の場合は、作業日を分けたり応援を出したりして対応していますが、このコーディネイトは担当役員が行っています。

Q. 委託者をどのように決めましたか

まず役員会に、仕分けの作業の議題を上程して回数や金額を算出し、条件を検討しました。承認を得たのち、業務委託についてお知らせを作成し、委託を受けてくれる方を全戸配布で募集しました。ありがたいことに4名の住民が応募をしてくれましたので、最初に申し込んでくれた方に決定させていただきました。

Q. 実施してどうでしたか？

専門的に作業をしてくれる方がいるので、安定して配布ができています。委託ができたおかげもあり、取り組みたかった課題のための時間として、有効に使うことができるようになりました。そして、小額ではありますが、受けて下さっている住民の方も喜んで下さっているのです、結果としてよかったです。

【取り組めるようになったこと】

- ・「災害時の要支援者対策」を民生委員や防災リーダーと共に検討
- ・ホームページ「安東三丁目自治会の広場」の作成や運営
- ・世帯保存版「我が家の防災対策」の作成
- ・世帯保存版「資源回収の出し方ガイド」の作成

業務委託のポイント

- ・必ず役員と相談し、役員会で承認を得る
- ・受託者の選定は、全戸に募集をかけて情報を共有化し公平に選ぶ
- ・契約内容を明文化し、覚書を取り交わす。



脇田征一郎 自治会長

安東三丁目自治会

世帯数：約820世帯
人口：約1,800人
高齢化率：22.4%

(令和3年4月時点)

※人口・高齢化率は町丁名による参考数値です。



全自治会・町内会アンケートより

その他市内の「負担軽減の好事例・検討中の事例」

- ・町内会の役員以外の有志の参加、組織作りを積極的に進めています。
- ・活動の無償化(ボランティア)の見直しを考えています。謝礼など、有償化することを検討しないと役員の成り手などがいないため、検討をはじめています。
- ・水害時に対応できる女性を中心とした検討委員会の設置を検討しています。
- ・隣接する自治会とともに夏祭りを開催しています。他の行事も検討したいと思っています。
- ・住民に自治会の問題点についてアンケートをし、意見の多かった項目について改善案を提示し、再度住民にアンケートを実施。結果をもとに、活動の見直しを実施しています。
- ・来年度の会長が困らないように引き継ぎ書を作成しています。

静岡県人材養成塾
地域デザインカレッジ2021
自治会・町内会編

全国でもめずらしい
地域人材の育成講座

静岡市は、市民主体のまちづくり推進のために、地域の課題解決に取り組む人材を育てる「人材養成塾 地域デザインカレッジ」を開講しています。このように本格的に地域の人材育成に力をいれる講座はとてめずらしいため、全国から行政職員や関係者が視察に訪れるほどの講座です。

令和3年度から自治会・町内会活動のための講座に

さらに静岡市は、令和3年度から「自治会・町内会編」として、日頃から地域のために奮闘する自治会・町内会のみなさまの困りごとに対応できるように、より専門性を高めて実施しています。



ごみの出し方や、防災活動、外国人住民との共生など、自治会によって課題は異なりますし、受講をするめるうちに課題が変化することも多々あります。



各受講生の自治会・町内会の人口減少率や高齢化率、転入率など、さまざまなデータをグラフでくらべて、自分の地域を客観的に認識することで、課題への理解が深まります。

自分の地域を数字で知る

地域デザインカレッジは様々なデータをもとに自分の地域を数字で把握することからはじまります。ただ「高齢者が多い」ではなく、どの程度の割合で、それは市内平均より高いのか、また地域に転入者や持ち家の人がどのくらいいて、今後どうなるのかなど、数字をもとに自らの地域特性を知り、感覚的に把握していた課題を明確にすることで、改善するには何をすべきかを絞り込んでいきます。

各自治会が必要とする課題の解決方法を共に考えます。

各地域が異なることを前提に、講師や市職員が、各受講生に対して個別のサポートをさせていただき、課題解決のお手伝いをします。地域課題の多くは、活動の見直しやちよつとした工夫によって改善することも多いです。令和4年度も自治会・町内会に関わる方を対象に、開講予定です。一緒に考えることで、みなさんの活動のお手伝いをさせていただきます。

【令和3年度の受講生取組内容】

広野町内会

「組長活動の改善に向けて」
組長活動の改善に向け、互いの組長活動を知り、活動へ生かせるマニュアル作りを行います。

常磐町二丁目自治会

「マンション住民の自治会活動参加」
多様な住民と共存する市街地の自治会において、防災活動の必要性を説き、住民アンケートを実施。改善を目指します。

寿町一区自治会

「自治会における防災の取組」
初の会長就任から、防災活動を最優先事項とし、災害時を想定した、寿町一区ならではの防災活動の立て直しを検討。

登呂六丁目町内会

「町内会活動の見える化」
町内会活動を可視化することで、住民と課題を共有し、町内会が抱えるさまざまな課題の改善を目指します。

大谷駿河台地区

「地域の見守り」
福祉と地域について改めて考え、自らができることが何なのかを問い、新しい一歩を踏み出します。

【付録】

静岡市 自治会・町内会活動
引継ぎガイドBOOK

みなさまの自治会・町内会活動
にお役立てください。

しずおか自治会マガジン

【発行日】令和4年3月
【発行元】静岡市 市民局 市民自治推進課
〒420-8602
静岡市葵区追手町5番1号
TEL 054-221-1265
【企画・編集・デザイン】里山くらしLABO
メール: labosatoyama@gmail.com

「しずおか自治会マガジン」は、右記のQRコードからご覧いただけます。ダウンロードも可能です。ご活用ください。



「しずおか自治会マガジン」では、静岡市内の自治会・町内会活動の、好事例や楽しい取組、頑張っている方のお話など、さまざまな情報の提供をお待ちしております。電話にてお寄せください。

【問合せ】市民自治推進課
電話：054-221-1265

静岡県人材養成塾 地域デザインカレッジ2022
令和4年夏 開講予定!!

自治会や町内会等の地域コミュニティが抱える課題に対して、「住民アンケート」や「活動の見直し」など、地域を見つめ直す様々な手法を通し、現状把握や分析を行い、地域の方々の共感を得ながら、解決策を提案、実践し、よりよい地域づくりを目指す講座です。

- 時期 7～12月/土曜午後
- 回数 5回程度
- 対象 市内で地域コミュニティ活動に関わる方
- 定員 20人程度
- 主な会場 静岡市役所静岡庁舎ほか
- 受講料 3,000円

【問合せ】
生涯学習推進課
054-221-1207